

しょうれん 力障連「わ」かい報ほう

<http://challenged-catholic.net/> No.108 2026. 8 .25 発行はっこう

もくじ 目次

かんとうとくしゅう 巻頭特集	あゆ ともに歩む	てききょうかい もと シノドスの教会を求めて	しょうれんきょうりよくしさい はなふさ カ障連協力司祭 英 隆一朗神父	りゅういちろうしんぶ 1
わたし 私にとつての聖書朗読	せいしりょうどく 群衆を掻き分けてー	ぐんしゅう か わ カ障連名古屋大会案内 (再掲)	かい かいちよう アルバの会 会長 春木雄一郎	はるきゅういちろう 5
しょうれんなごやたいかいあんない カ障連名古屋大会案内 (再掲)	さいけい カ障連名古屋大会実行委会	しょうれんなごやたいかいじつこうかい 小牧ワイナリーツアー	こまき 小牧ワイナリーツアー 実行委員会	じつこういんかい 7
こまき AJU 小牧ワイナリーの紹介	えーじえいゆー こまき 小牧ワイナリー所長 白井 尚	しょうかい カ障連加盟団体意見交換会の報告	こまき しょうちよう カ障連副会長 田中 実	しらい たかし 10
しょうれんかめいだんたいいけんこうかんかい カ障連加盟団体意見交換会に参加して	しょうれんかめいだんたいいけんこうかんかい カ障連加盟団体意見交換会に参加して	えむかえサクラマザーの会	すえなが こ 末永さち子	みのも 14

かんとうとくしゅう 巻頭特集

あゆ ともに歩む

てききょうかい もと シノドスの教会を求めて

しょうがいしゃれんらくきょうきかいきょうりよくしさい
カトリック障害者連絡協議会協力司祭

かい はなふさ りゅういちろう
イエズス会 英 隆一朗

ねん ねん
2023年から2024年にかけてバチカンに

おいてシノドスの会議が開催された。従来は
しきよう あつ
司教のみが集まって話し合うスタイルだった

が、教皇フランシスコがやり方を抜本的に
きようこう かつた ばつぽんてき
変更し、さまざまな立場の人が参加すること

になった。また、従来は全体会のみであった
じゅうらい ぜんたいかい
が、小グループの分かち合いを重視し、

霊的会話というやり方を導入して、参加者が
れいてきかいわ かつた どうにゅう さんかしや
分かち合いながら、聖霊の導きを探っていく

形で行われた。シノドスの会議に実際に
しょうがいしゃ さんか
障害者が参加したかどうかは不明である。シ

ノドスの写真を見る限り、障害者の姿は見受
けられなかったようだが（真偽を知っている
ひと おし
人は教えてほしいが）。ただし、シノドスの
くろまいす か
ロゴには車椅子が描かれていて、障害者もと
もに歩むメンバーとして認められているよう
に見受けられた。

ふつう
普通はバチカンでの会議が終われば、シノ
ドスは終了する。しかしながら、今回は違う。
しゅうりよう
バチカンの会議終了から、各国・各司教区に
かいぎしゅうりよう かつこく かくしききょうく
おいてシノドスの歩みを続けていかなければなら
ない。各教区において、これからのシノドス
かくきょうく
的歩みの具体的な計画が発表されていること
てきあゆ ぐたいてき けいかく はっぴよう
だろう。それは、これから各教会においてこ
そ、ともに歩む教会を作っていかなければなら
ないのだ。

かいぎ さいしゅうぶんしよ
会議の最終文書として、『シノドス流の
きょうかい まじ さんか せんききょう
教会一交わり、参加、宣教』（カトリック
ちゅうおうきょうきかい
中央協議会）が出た。その文書の中で、

しょうがいしゃ 障害者についてのまとまった記述は63番にある。ぜんぶん いんよう 全文を引用すると (すこ 少)しわかりにくいやくご 訳語だが)、

「63. 洗礼を受けたすべての人で担う、宣教のための共同責任を遂行する中で、福音宣教の精力的主体として呼ばれ派遣されていると自覚する障害者の使徒的能力を、わたしたちは認識しています。彼らのとても豊かな人間性からの貢献を生かしたいと思います。わたしたちは、彼らの苦悩、疎外、差別の経験を知っています。時にはキリスト教共同体の中でさえ、パターンリスティックな憐憫の態度によってそれを味わわされたのです。彼らの教会生活と宣教への参加を後押しするために、教会に障害者のリサーチセンターのようなものを設立することを提案します」。

この提案を3つの観点に分け、それぞれを説明しながら、障害者がどのようにともに歩む教会のメンバーであるのか。そして、カ障連が目指すものは何かを記しておきたい。

1. 障害者は福音宣教の担い手である。せんきょう きょうどうせきにん 宣教の共同責任があり、こうけん もと 貢献が求められている。
2. 障害者には苦悩、疎外、差別の経験がある。特に、障害者はパターンリスティックな態度に苦しめられてきた。
3. 障害者のリサーチセンター設立のていあん 提案。

1. シノドスの一つの中心的なテーマは、「すべての人が福音宣教の担い手」であるという洞察である。しんぶ しゅうどうしゃ 神父や修道者だけが福音宣教をするわけではない。すべての信徒にその共同責任がある。「障害者にも宣教の共同責任がある」というのだ。それゆえ、「障害者がもっている豊かな人間性から、障害者が主体的に福音宣教に貢献すること」が期待されている。

この点は、障害者 (特にこの通信を読んでいる人) は心がけねばならない第一のポイントである。カ障連は以前から、ミサに完全参加できることを主張してきた。未だそれが達成されていない面があるのは事実である。それにもかかわらず、障害者のミサへの完全参加は真の目標ではない。むしろ、1つの出発点というか、前提条件に過ぎない。ほんとう 大事なことは、障害者が主体的に福音宣教という共同責任を果たしていけるかどうか、それが根本的に問われねばならない点である。

障害者にはハンディが多い。介助者なしに日常生活が営めない方が多いだろう。実際のところ、ヘルパーや家族の人に手助けをしてもらいながら、日常の仕事と生活をこなすだけで精一杯というのが本音かもしれない。高齢化が進み、ますます外出が困難になり、ミサに行くことにすら困難をかかえておられる方が多いであろう。高齢化でミサに参加できなくなるのは健常者でも同じである。

たとえ多くのハンディがあっても、シノドスの教会においては、障害者は福音宣教の主体的担い手であり、宣教の

共同責任があることを自覚すること。それがともに歩む教会のメンバーとして、最も大事な点である。

2. もちろん障害者が社会と教会で生きる中で、「さまざまな苦悩、疎外、差別」がある。その経験を知っている、というのだが、健全者の中でどれくらいの人々がそれを知っていると断言できるだろうか。普通は、障害者と日常的に付き合っていない限り、障害者の苦しみは理解できないのではないか。また、障害者が自らの苦い経験を語ってくれないと、健全者は何が苦しみか分からないことが多い。話してもらって初めて気がつくことばかりではある。

力障連ではさまざまな障害者が集まっている。彼らと接していると、障害によって、問題点は全く違う。障害特性が違っているし、さらに同じ障害者でも障害の程度によってかなり差がある。生まれつき障害をもっていたのか、中途障害者なのかでも、大きな違いがあるように感じる。

いずれにせよ、障害者一人ひとりが置かれている状況から、その困難だけでなく、豊かな恵みの両方を分かち合い、互いに理解していくことはいつも必要なことだろう。健全者と障害者の間、障害者同士において、共通理解を築いていくプロセスを歩んでいきたい。

いろいろな困難があるが、その中でも「パターンリスティックな態度」というがなかなかのくせ者である。パターンリズム（父権主義）というのは、強い者が弱い者を

助ける時、本人の望みや意見を聞くことなく、親切や介入などを押しつけてしまう態度を指す。弱い者の望みや意見を無視して、善意を押しつけてしまう態度である。

教会の中で一番よく現れる形は、教会の信徒は支援する側に固定されていて、支援を必要とする人（障害者だったり、生活困窮者だったり）が支援を受ける受動的立場に甘んじているケースである。確かに障害者はコミュニケーションに時間がかかるし、何かを実行するにも助けが必要とされることが多い。そのような面があるからか、障害者のための集まりだったとしても、集まりの準備や実行などすべて健全者だけでどんどん進められ、障害者はいつまで経ってもお客様の立場から出られないことが散見される。この点は微妙な要素が含まれているが、自戒を込めて、活動を振り返ってみる必要があるのではないか。また、障害者自身が受動的な立場から脱却しようとする積極的な姿勢も求められているだろう。

障害者と健全者が同じ仲間として、同じ目線で、同じ目標にペースを合わせながら、ともに歩んでいく作業を積み重ねていく中で、ともに歩むシノドスの教会に近づいていくのではないだろうか。そのためには十分な対話と粘り強い実践を地道に続けていくしかないだろう。

3. 「リサーチセンター設立」の提案は実は以前から提唱されているものだ。日本カトリック障害者連絡協議会規約は1982年から

施行されている。その規約の第4条活動の項目には以下のように記されている。

第4条 本協議会は、前条の目的にのっとり、次の活動を行う。

- (1) 福音の教えにもとづいて苦しみのキリスト教的意義を伝える。
- (2) 病者・障害者がもつ問題を収集・分析し、それを教会及び社会に反映させる。
- (3) 前項の目的を達するために、障害者情報センターを設ける。

この(3)を見ると、『シノドス流の教会』に出てきた提案を、何と40年以上前に先取りしているのだ。その先見の明には驚かされる。ただ、1982年以降、残念ながら、日本の教会の中には、障害者情報センターは設置

されていない。現在の日本の教会は勢いをなくしており、障害者運動も少し沈滞気味である。情報センターを設立するのは物理的に無理かもしれない。それでも、仲間同士が自分たちの状況を分かち合い、情報交換していくことは、より大切になっているような気がする。現代はインターネットの発達によって、情報交換は以前よりも格段に便利になってきた。力障連の本来の活動は、その名称に記されているように、「連絡協議」をしていることである。力障連が連絡と協議を積み重ねながら、リサーチセンターや情報センターの役割を果たしていったほしいと切に願っている。それは、障害者が福音宣教の担い手として、とも歩むシノドスの教会を築いていくためなのだ。

◆本の紹介◆



著者：教皇フランシスコ
シノドス第16回通常総会
出版：カトリック中央協議会
発行日：2025年6月30日
価格：880円（税込）192頁

巻頭記事の中で紹介されたシノドス最終文書が出版されています。

また、シノドス事務局サイトより、全文が無料でダウンロードできます。この機会にぜひ読んでみてください。

シノドス流の教会
——交わり、参加、宣教
《シノドス最終文書》

シノドス最終文書
ダウンロード →



わたし 私にとっての聖書朗読 — 群衆を掻き分けて —

アルバの会 会長 春木 雄一郎

2020年4月、私は突然倒れ、目覚めた
ときには視力を失っていました。その
後、幾度もの試練を経験する中で教会と
出会い、2024年の復活祭に洗礼を受け
ました。神様のみ言葉を届ける聖書朗読
に心を惹かれたことが、この歩みの始め
りです。

私は中途失明のため、点字を読むことも
書くこともできません。そのため、聖書
と向き合う方法も、多くの視覚障害者の
方とは異なります。ここに綴るのは、そ
のような私が、自分なりの方法を模索し
ながら、「祈りとしてのみ言葉」を届け
たいと願い、聖書朗読へ歩んできた道の
りです。

聖書朗読への憧れは、私の中で静かに、し
かし確実に膨らんでいきました。

2024年の復活祭に洗礼を受け、信徒と
なった喜びは、私を満たしていました。しか
し、同時に、視覚障害のある全盲の私にとっ
て、朗読は『憧れのまた憧れ』でしかないの
ではないかという思いも湧き上がってしまし
た。聖書朗読への思いは、日に日に募るばか

りでした。

そんな時、神父様の『聖書は単なる書物で
はない。朗読は祈りである』という言葉が、
私の心を捉えました。それは単なる言葉の
羅列ではなく、神への捧げもの、そして信徒
の方々への贈り物なのだと教えられました。
その言葉を聞いた時、『憧れのまた憧れ』だっ
た朗読が、急に現実味を帯びてきたのです。
『私にもできるかもしれない』。そう思った
瞬間、胸の奥に秘めていた情熱が、一気に溢
れ出してきました。私は、この祈りを込めて
聖書を読むこと、そして信徒の方々に心を込
めて語りかけることを決意いたしました。

神父様からは、「朗読は決して披露するも
のではなく、神様のみ言葉を会衆へ届ける務
めである」と教えられました。『祈りとして
の朗読』に挑戦すると決めたものの、では、
一体どうすれば良いのだろうか。私なりの
方法を確立する必要がありました。まず、思
いついたのは、朗読箇所を丸暗記すること
でした。それは、聖書を心に刻む大切な作業で
す。しかし、丸暗記したものをただ読み上げ
るだけでは、神への祈りとして、また語りか
けとして、何か足りないという葛藤が生まれ
ました。

果たしてこれで良いのだろうか。

神様の言葉とは、一体何なのだろうか。

朗読台は遠のいていくばかりでした。

朗読が『祈り』であるならば、言葉を自分
のものにすると同時に、祈りにする必要があ
ります。私が所属する教会では、主任司祭の
神父様が、私たち信徒にも福音書を書き写す

ことを勧められます。全盲の私は、点字
を読むことも書くこともできません。そのた
め、書き写したものが正確に書けているのか、
自分自身で確かめることさえできません。そ
れでも、私は書き写すことにしました。聖書
を書き写すことは、私にとって、聖書の言葉
をより深く理解するための大切なプロセスで
した。一文字一文字を丁寧に書き写すことで、
聖書の言葉が心に染み渡り、新たな発見や気
づきがありました。

なぜその日のミサでその福音の箇所が選ば
れているのか、なぜ第一朗読では旧約のその
箇所が選択されているのか、詩篇、第二朗読
の意味、神様からのメッセージとは何なのか
と。

最初は言われたから書き写していた聖書。
少しずつ、それは私とイエス様との対話へと
変わり、自らペンを取るようになっていきま
した。今では、私にとって必要不可欠なもの

です。

私の心は、イエス様の服に触れたい。

あの出血の止まらなかった女性のよう
に。

群衆を掻き分けて。

自分もそのような気持ちだったのかもしれ
ません。

私が朗読を担当するのは不定期ですが、そ
の際には必ず告解を受けるように心がけてい
ます。それは、少しでも罪を洗い流し、神様
の前に真っ白な心で、生まれたままの子ども
のような心をもってみ言葉をお届けしたいと
願っているからです。それは、神様のみ言葉
を、私を通して会衆に届けるための責任だと
考えているからです。

私は、こうして福音の光に導かれて、聖書
の言葉を伝えていくのです。目が見えなくて
も。





第15回力障連名古屋大会の

参加申し込みが始まっています！



† 主の平和

会員のみなさん、お元気でしょうか。前号でもお知らせしたとおり、第15回力障連名古屋大会の参加申し込みの受付が始まっています。3年ぶりとなるこの大会を、少しでも良いものにしよう、実行委員一同、取り組んでおります。

今年の秋は、ぜひ名古屋で、皆さんと顔を合わせて再会を喜び、ともに主の恵みに与る喜びを分かち合いませんか？1人でも多くの仲間とお会いできることを、心から楽しみにしております。

名古屋大会 実行委員一同

【日時】 2026年11月14日（土） 12:00～19:00

15日（日） 9:20～13:00

【会場】 愛知県産業労働センター ウィンクあいち

名古屋市中村区名駅4丁目4-38 JR名古屋駅桜通口から徒歩3分

【参加費】 2日参加 4,000円 1日参加 2,000円 懇親会 4,000円

【主催】 第15回日本カトリック障害者連絡協議会名古屋大会実行委員会

☆お申込み・問い合わせ☆

第15回名古屋大会実行委員会事務局 担当 黒木信之、村上かつ

〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15

●お問い合わせ：メール／kashourentaikai@aju-cil.com FAX／052-841-2225 まで

●お申し込み：参加者・介添者も各自一人につき1枚の別紙「参加申込書」に記入し、メールかFAXまたは郵送でお願いいたします。

付添者等用紙不足のときは各自でコピーして申し込みをお願いいたします。

*宿泊は各自で直接お申し込みください。

*申し込み・参加費振込締切日 2026年10月15日（木）必着

参加費振込先：郵便振込 番号 00880-0-117367

受取人 カトリック名古屋教区障害者連絡会

*通信欄に「名古屋大会参加費」と明記してください。

参加受付は郵便局よりの払込取扱票で入金を確認し受付とします。

*詳しくは、前号「わ」をご覧ください。

*駐車料金の障害者全額減免については、大会事務局へお問い合わせください。

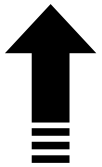


「わ」107号

だい かいにほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかいなごやたいかいさんかもうしこみしよ
第15回日本カトリック障害者連絡協議会名古屋大会参加申込書

しめ切り／
がつ にち
10月15日

たいかいかいさいび ねん がつ にち ど にち にち
大会開催日／2026年11月14日（土）～15日（日）
☑を付けて下さい FAX／052-841-2225



フリガナ		
①申込者名	(氏)	(名)
せいねんがっぴ 生年月日	ねん 年 がつ 月 にち 日	おとこ 男 □ おんな 女 □ しょうがい 障害 □ あり 有 □ なし 無 □
しょぞくだんたいめい 所属団体名	きょうく 教区	きょうかい 教会
②住所	〒 - -	
れんらくさきでんわ 連絡先電話	- - e-mail /	
きんきゅうれんらくさきしめい 緊急連絡先氏名	かぞく 家族 □ ゆうじん 友人 □ ほか その他 ()	
でんわばんごう 電話番号	- -	

しょうがいじょうきょうきにゆうらん ③障害状況記入欄 ☑を付けて下さい	
しゅべつ 種別	したい □ ちようかく □ しかく □ ないぶ □ せいしん □ ちてき □ ほか □ その他 ()
しょうがいとうきゅう 障害等級	きゅう 級 しゅ 種
ほそうぐ 補装具	くるま □ もうどうけん □ つきそい □ かいじょしゃ □ ほか □ その他 ()
(フリガナ)	でんわ 電話 /
つきそい 付添、介護者名	かぞく □ ゆうじん □ ほか □ その他 ()

④11月15日昼食弁当 ☑注文する ☐注文しない

⑤参加希望日／☐14日・15日 ☐14日のみ ☐15日のみ ☐懇親会

さんかひ 参加費

☐2日参加 4000円 ☐1日参加 2000円

☐懇親会参加 4000円 ☐11月15日昼食弁当 600円

さんかひ 参加費	えん 円
ふりこ 振込み予定	がつ 月
よてい 予定	にち 日

⑥参加希望分科会 (第2希望まで○を付けてください)

だいichiきぼう 第一希望

だい 第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8

だいにきぼう 第二希望

だい 第1 第2 第3 第4 第5 第6 第7 第8

⑦交通費補助希望 ☐有 ☐無 (実費記入 円) 但し、全額補助はありません

①～⑦の記入をご確認下さい。参加費入金の確認をもって受付完了となります

じむきょかくにんらん 事務局確認欄	うけつけび 受付日	がつ 月 にち 日	さんかひじゅうりょうび 参加費受領日	がつ 月 にち 日
----------------------	--------------	--------------	-----------------------	--------------

だい かいにほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかいなごやたいかいじつこういんかい
第15回日本カトリック障害者連絡協議会名古屋大会実行委員会

といあわ だい かいなごやたいかいじむきょく
問合せ／第15回名古屋大会事務局 FAX／052-841-2225 E-mail／kashourentaikai@aju-cil.com

*ここに記入いただきました個人情報、本大会の目的以外には使用いたしません

サクラアワード2026受賞×力障連名古屋大会 こまき 小牧ワイナリーツアー

リフト付き
送迎車あり！

主催：A J U 自立の家 小牧ワイナリー ツアー実行委員会
会費：10,000円（受賞ワインおみやげ付）※参加会費は当日徴収いたします
申込み：下記の申込書を記入し、メールまたはFAXでお申し込みください。

e-mail：winery-tour@aju-cil.com FAX：052-841-2225

申込締切：10月15日（但し定員になり次第メ切り）

＜プログラム＞

13時30分 名古屋大会 会場を出発
14時30分 小牧ワイナリー 到着後、昼食・自由時間
15時 小牧ワイナリー見学案内（所要時間：60分）
①施設概要説明（多目的ホールにて） ②ぶどう畑見学（ぶどう栽培、作業内容説明）
③醸造所見学（ワイン醸造過程の説明） ④試飲&買い物（ショップ内）
16時 小牧ワイナリー出発
17時 解散（名古屋駅）
※出発地点・解散地点によっては、小牧ワイナリー到着時刻・出発時刻が前後する可能性があります。

★参加受付された方にはツアー参加受付証をメールまたはFAXで送ります。

当日ツアー受付で参加証を提示し参加費1万円をお支払いください。

★昼食は各自バスの中で。お弁当希望者は名古屋大会申込時に注文（¥600）をお願いいたします。

ワイナリーの2階にも休憩ホールがあります。（注：ワイナリーには喫茶コーナーはありません）

A J U 自立の家 小牧ワイナリーツアー 参加申込書

全項目記入願います

申込者名	ねんれい 年齢	
住所		
連絡先電話番号		
e-mail		
FAX番号		
名古屋大会参加申込	がつ 月	にちもうしこみずみ 日申込済（大会申込必要）
同伴者名（ツアー申込必要）	もうしこみひつよう	
備考		

◆働く仲間の紹介◆

多治見修道院（岐阜県）のブドウ畑の手入れを請け負ったことをきっかけに、愛知県小牧市で、障がいのある仲間たちとワイン造りを手がけるAJU自立の家小牧ワイナリーの活動をご紹介します。

AJU自立の家

小牧ワイナリー

所長 白井 尚

初めまして、小牧ワイナリー・ななつぼしぶどうしゅこうぼうの白井尚と申します。まずは、自己紹介。在学中に障害者福祉、及び、AJU自立の家（以下、AJU）と出会う。障害のある仲間の就労・地域生活に取り組む理念に関心が湧き、平成18年4月、AJUに就職。配属先が知的・精神に障害のある仲間が働く就労支援施設・ワイン事業部であった。

平成23年、障害者の就労場を広げる新たな



なワイナリー創業を目指して、十勝ワイン（北海道池田町）で約2年間のワイナリー研修へ出向。北海道と愛知県の違いを意識した上で、栽培や醸造技術、販売や酒税法、人脈確保、等に関わることについて幅広く学ぶ。平成27年5月「小牧ワイナリー・ななつぼし葡萄酒工房」（以下、小牧ワイナリー）が誕生。私は指導員の傍ら、栽培・醸造責任者を担当。

◆小牧ワイナリーとは

小牧ワイナリーは、ワイン用の葡萄栽培からワインの生産、醸造、販売、梱包発送、店頭接客まで、様々な仕事を障害のある仲間たちと一緒にしている福祉的ワイナリーとなります。全国の障害者就労継続支援施設で働く障害者の賃金は、全国平均＝約1万7千円。AJUは、社会で最も弱い立場の障害者を絶対的に支える組織。全ての人が当たり前に働き、普通に暮らせる社会の実現の為に！という想いを抱いています。そして、私たちは出来上がったワインの売上を仲間たちの賃金とすることで、経済的に自立して、自分らしく暮らせるように、知的・精神に障害ある仲間たちの新たな働く価値を創造したいと考えております。

◆障害のある仲間たちと共に

小牧の土壌は粘土質、水捌けが悪い。梅雨や秋雨時期には大雨が続き、湿度も高い。台風の影響も多い。真夏は連日の猛暑日や酷暑日、夜温が高く、寒暖差はない。土壌や



きこうじょうけん さいあく つね びょうがい ひんしつていか たたか
気候条件は最悪、常に病害や品質低下との闘

い。そんな悪条件であっても、しっかりした

おいしいぶどう さいばい ころ
葡萄の栽培を試みています。そして、

ワインの生産、醸造、販売まで自分たちが造

り上げた達成感。更に、自身の労働によって

ちんぎん え じりつ せいかつ はぐく
賃金を得て、自立した生活を育むことができ

る喜びを目指したい。できる限り障害のある

な か ま しゅたいてき かか はたら たいせつ
仲間が主体的に関わることを、働くことを大切

にしたい。という想いと、どんな状況にあっ

ても「ここに来て良かった」「ここで働いて

いて良かった」と思える職場、生きがいのあ

る環境。出来上がったワインを通じて、障害

のある仲間たちの個性、共に支え合う、共に

理解し合う職場や社会を目指す発信、魅力の

ついきゅう さき ひとり おお な か ま はたら
追求。その先に、一人でも多く仲間が働きな

がら自立生活を歩み始められるように、

いっばいっば すす かんが
一歩一歩、進んでいきたいと考えております。

こまき 小牧ワイナリーの目的は「仲間と共に、ワ

インを通して、あらゆる人々に喜び、幸せ、



まんぞく ていきょう おも も
満足を提供する」という想いも持っています。

たと かいさい つう よろこ しゅんかん
例えば、イベント開催を通じての喜びの瞬間

があります。自身のワインを積極的に宣伝・

はんばい じゅうじつかん な か ま えーじえいゆー
販売する充実感のある仲間たちやA J U

職員の笑顔、多くのお客様やボランティアの

かたがた たの えがお とも たの
方々の楽しむ笑顔、ワインと共に楽しんでい

る会場全体の一体感。直接、対面で関わり合

える機会の大切さ。障害の有無に限らず、個々

の個性、共に支え合う、共に理解し合う社会

の発信、魅力の追求が微力ながら図られている

ように思います。

◆おいしいワインを届けたい

また、小牧ワイナリーでは、この数年間、おいしいワインを皆様に提供ができるように栽培や醸造方法を変えました。栽培面では、降雨から葡萄を守る為の葡萄笠・葡萄袋かけを行い病害のない健全な葡萄栽培、酸味と甘味のバランスを意識した収穫、着色を目指した栽培、収穫後に病果を徹底的に選果作業等の改善。醸造面では、健全な発酵を促す発酵助成剤の添加、葡萄品種に応じて使用酵母の見直し、濾過工程や各種分析値による品質の安定化等の改善。結果、葡萄由来の香りや味わいに良い変化が起こり、ワインらしい一面を表現ができるようになりました。お客様からも「おいしい。優しく心温まる。個性を楽しめる味わい。」と評価していただいております。今は、特別なことは何もせず、丁寧に栽培、醸造することで、葡萄本来の果実味を漂わせたい。小牧で栽培された葡萄に合わせた醸造スタイルとして、まずは、フレッシュな味わいを目指したい。そのような想いも持っております。葡萄樹も醸造方法もまだまだ成長段階。皆様には



丹精込めて葡萄樹の手入れをする仲間たち

毎年毎年、進化する味わいを楽しんで頂ければ幸いです。

おいしいワインを造る為には、品質の良い葡萄を栽培すること。毎年、この安定を目指して、毎日毎日、丹精を込めて葡萄樹の手入れを行います。さあ、今日も葡萄畑へ出発しよう。行って来ます！ あっ、その前に、熟成中のワインの様子もみてみよう。今年のワインは、どんな感じかな。これも、ワインの魅力に惚れる瞬間だ！

※名古屋大会会場ではワイン販売はありません。受賞ワインなど、ワイン購入希望の方は小牧ワイナリーオンラインショップからご注文ください。



小牧ワイナリーオンラインショップ
公式サイト

しょうれんかめいだんたい
力障連加盟団体
いけんこうかんかい
意見交換会の振り返り

しょうれんふくかいちよう
力障連副会長 田中 実

お疲れさまです。私がこの原稿を作成していたのは7月でした。猛暑ではなく酷暑という時期に入ろうとしています。体調管理は私たちの大切な努めですね。

さて、先般^{せんぱん} 6月6日^{がつむいか}（土曜日^{どようび}）大阪^{おおさか}・
高松教区^{たかまつきょうく}サクラファミリア^{うめだきょうかい}（梅田教会^{うめだきょうかい}）にて
力^{りき}障連^{しょうれん}加盟団体^{かみれいだんたい}意見交換会^{いけんこうかんかい}を開催^{かいさい}いたしました
た。13時半^{じはん}から18時半^{じはん}と短い時間^{みじか}ですが
かつぱつ いけんこうかん げんち
活発^{かつぱつ}な意見交換^{いけんこうかん}ができました。現地^{げんち}とオンラ
イン^{かいさい}（ZOOM）のハイブリッド開催^{かいさい}です。
かめいだんたい おお さんか かんしゃ
加盟団体^{かみれいだんたい}から多く^{おほく}のご参加^{さんか}あったことに感謝^{かんしゃ}
いたします。

ぜんこく かめいだんたい にっ ちょうかい きょうあい とうきょう
全国^{ぜんこく}の加盟団体^{かみれいだんたい}、日力^{にっ}聴会^{ちょうかい}、共愛会^{きょうあい}、東京^{とうきょう}
力^{りき}障連^{しょうれん}、東京^{とうきょう}オリーブの会^{かい}、名古屋^{なごや}力^{りき}障連^{しょうれん}、
力^{りき}障連^{しょうれん}大阪^{おおさか}フレンドリー、えむかえサクラマ
ザーの会^{かい}、力^{りき}障連^{しょうれん}ながさき、福岡^{ふくおか}アルバの
会^{かい}、鹿児島^{かごしま}パッションの会^{かい}、吃音^{きつおん}グループノ
トケールの会^{かい}からの報告^{ほうこく}がありました。オン
ラインでシルバノ神父^{しんぶ}も参加^{さんか}されていました。

じょうほうほしょう おおさか たかまつきょうく きょうりよく
情報保障^{じょうほうほしょう}は大阪^{おおさか}・高松教区^{たかまつきょうく}で協力^{きょうりよく}をいた
きました。手話^{しゅわ}通訳^{つうやく}を大阪^{おおさか}・高松教区^{たかまつきょうく}聴覚^{ちやうかく}
障がい者^{しょう}ボランティア会^{しゃ}、要約^{かい}筆記^{ようやく}をエッ
ファタ^{きょうりよく}の協力^えを得ました。ありがとうございました。

かめいだんたい いけんこうかんかい ないよう かくだんたい
加盟団体^{かみれいだんたい}意見交換会^{いけんこうかんかい}の内容^{ないよう}ですが、各団体^{かくだんたい}
が課題^{かだい}を抱えながらも各地域^{かか}で積極^{かくちいき}的な活動^{せっきよくてき}
をされているのがわかります。目的^{もくてき}を明確^{めいかく}に
して如何^{いか}に仲間^{なかま}と出会い集い^あ、新たな動き^{うご}に
繋^{つな}げていくかを問うてこられたと思います。
しょうがいしゃ りかい とうじしゃ ちゅうしん すす
障害者^{しょうがいしゃ}への理解^{りかい}について当事者^{とうじしゃ}を中心に進め
ていく地道^{じみち}な努力^{どりよく}が大切^{たいせつ}であることを確認^{かくにん}
しました。そのコーディネート役^{やく}としての力^{りき}
障連^{しょうれん}の役割^{やくわり}をあらためて確認^{かくにん}しました。

ぜんたいてき ぎろん だい きかつどうけいかくけんとう
全体的な議論^{ぜんたいてき}として、第15期活動計画検討^{だい}、
だい きかつどうほうしん ぜんこく しょうがい なかま
第14期活動方針^{だい}（①全国^{ぜんこく}の障害^{しょうがい}のある仲間^{なかま}



し しょうがいしゃさべつかいしょうほう て び さくせい
を知る^し・②障害者差別解消法^{しょうがいしゃさべつかいしょうほう}の手引き作成^{て び}・
③障害者100人に聞く「教会の中の合理的^{さくせい}
配慮^{はいりょ}」の進捗状況確認^{しんちよくじやうきやうかくにん}、更^{さら}には、11
がつ かいさい なごやたいかい しゅうちおよ さんかじやうきやうかくにん
月開催名古屋大会^{がつ}の周知^{しゅうちおよ}及び参加^{さんか}状況確認^{じやうきやうかくにん}、
2029年福岡大会開催^{ねんふくおかたいかい}に関する説明^{かん}などをお
こないました。

みじか ほうこく
短い報告^{みじか}になりましたが、あらためて
かめいだんたい いけんこうかんかい たいせつ じっかん
加盟団体^{かみれいだんたい}意見交換会^{いけんこうかんかい}の大切^{たいせつ}さを実感^{じっかん}したこと
は言うまでもありません。そして現地参加^{げんちさんか}と
オンライン参加^{さんか}での開催^{かいさい}を今後^{こんご}より充実^{じゅうじつ}させ
ていくことを考えています。更^{さら}には情報保障^{じょうほうほしょう}
をしっかりと進めていく、パソコンやオンラ
インを使えない方^{つか}への配慮^{かた}を行なうなどの
課題^{かだい}は他にも多くあります。その上^{うえ}で、
かめいだんたい いけんこうかんかい ねん いちど
加盟団体^{かみれいだんたい}意見交換会^{いけんこうかんかい}も年に一度^{ねん いちど}でなくオンラ
インを含^{かんが}めて可能な限り開催^{さんか}機会^{かいさい}を増やせ
たと考えています。

かめいだんたい いけんおよ じょうほう かい
加盟団体^{かみれいだんたい}からのご意見^{いけんおよ}及び情報^{じょうほう}を、会とし
てもっと幅広^{はばひろ}く分かち合^わえる場^あづくり、
ぐたいてき ぎろん ないよう めいかく
具体的に議論^{ぐたいてき}ができる内容^{ぎろん}を明確^{ないよう}にする、
れい しょうがいしゃさべつかいしょうほうたいおう ごうりてきははいりょ
（例^{れい}、障害者差別解消法^{しょうがいしゃさべつかいしょうほうたいおう}対応^{ごうりてきははいりょ}、合理的^{さくせい}配慮^{はいりょ}の
すす かつ じょうほうほしょう かつ かくだんたい
進め方^{すす}、情報保障^{かた}のあり方^{じょうほうほしょう}、各団体^{かた}の
かだい きやうゆう ほうさい しょうがいしゃ
課題共有^{かだい}、インクルーシブ防災^{きやうゆう}、障害者^{ほうさい}グルー
プの育成^{いくせい}など）何^{なに}より出会^でえて良^よかった、力

しょうれん さんか よ 障連に参加して良かったという思いが育たないといけな^{かんが}いと考^{だんたい}えています。団体に限らず、小さなグループ作りへ向けた出^{ちい}会^{つく}いの場^む、楽^でしく気^あ軽^ばに学^{たの}び合^きえ^るる場^{まな}づく^ありを心^ばが^こけてい^{ころ}きたいと思^{おも}います。

かめいだんたいいけんこうかんかい ふ かえ しょうれん
加盟団体意見交換会を振り返って、力障連
としての役^{やくわり}割^{さいどめい}を再^か度^{きむ}明^{かんが}確^をにする責^せ務^{きむ}を考^{かんが}えま^をした。

こんご 今後ともよろしくお願^{ねが}いします。

かめいだんたいいけんこうかんかい 加盟団体意見交換会に さんか 参加して えむかえサクラ マザーの会 すえなが こ 末永 さち子

わたし しょうれん みなさま あ
私にとって、力障連の皆様とお会^あいできる
ことは、とても楽^{たの}しみなことです。

じぶん なに わたし い おも
自分でも、何もできない私が行^いってもと思^{おも}
いながら、会^{かい}員^{いん}さんとの交^{こう}流^{りゅう}が、福^ふ音^{おん}的^{てき}活^{かつ}動^{どう}
に大^{おお}きな勇^{ゆう}気^き、希^き望^{ぼう}が持^もてるのです。学^{まな}ばせ
ていただけるのです。そして、みなさんが暖^{あた}
かい主^{しゅ}の家^か族^{ぞく}と思^{おも}えるのです。

がつむい かあさ じ いえ で はじ しんかんせん
6月6日朝6時に家を出て、初^はめ^じて新^{しん}幹^{かん}線^{せん}
で大阪に向^おか^おい^さました。新^{しん}大^{だい}阪^{はん}のホー^おムに降^お
り立^たったと^ひと^ひと^ひと人^{ひと}人^{ひと}人^{ひと}…！サクラファミリア
ま^みでの道^{みち}案^{あん}内^{ない}を見^みてもパ^いニ^なック、田^{いな}舎^{かも}者^{かな}の悲^{かな}
し^しさ、どうし^みよう^いま^みずは右^{みぎ}に行^いこうと右^{みぎ}に
行^いったら、出^で会^あい頭^{がしら}にカ^めラ^{はい}ーが目^めに入^{はい}り
いっ^いし^しゅん^{しん}ぶ^ぶさ^さま おも しょうれん
一^い瞬^{しゅん}神^{しん}父^ぶ様^{さま}？と思^{おも}いま^ました。力^{りき}障^{しょう}連^{れん}の
神^{しん}父^ぶ様^{さま}？あ^あとを^をつ^ついてい^いった^たらサ^さク^くラ^らファミ^み
リア^{りあ}に行^いけるかも？神^{しん}父^ぶ様^{さま}は早^{はや}足^{あし}で、何^{なん}度^ども

みうしな ひっし お
見^み失^しい^おう^おにな^なり^りな^なが^がら、必^ひ死^しに^にあ^あと^とを^を追^おい
か^かけて、そ^そして^{して}と^とう^うと^とう^う見^み失^しって、どうし^しよ
うと思^{おも}って、ふ^ふと^と見^みるとサ^さク^くラ^らファミ^みリア^{りあ}の
前^{まえ}で^でした。三^{さん}人^{にん}の博^は士^{かせ}が星^{ほし}を^を頼^{たよ}りに馬^う小^ま屋^ごに
つ^ついた^たよ^ように、私^{わたし}は神^{しん}父^ぶ様^{さま}の背^せ中^{なか}を^を頼^{たよ}りに、
会^{かい}場^{じょう}につ^つく^くこ^こが^がで^でき^きま^ました。

いけんこうかんかい かつどうほうこく なか かめいだんたい
意見交換会^{いけんこうかんかい}は活^{かつ}動^{どう}報^{ほう}告^{こく}の中^{なか}で、加^か盟^{めい}団^{だん}体^{たい}が
会^{かい}員^{いん}減^{げん}少^{しょう}の中^{なか}で、そ^それ^れぞ^ぞれ^れ工^く夫^{ふう}して^{して}活^{かつ}動^{どう}して
い^いる^るこ^こは^はど^どこ^この^の団^{だん}体^{たい}で^でも^もお^おな^なじ^じだ^だと思^{おも}いま^まし
た。少^{すく}な^ない^い人^{にん}数^{ずう}で^でも互^たいの^の障^{しょう}が^がい^いを^を認^め合^あい
理^り解^{かい}し^しな^なが^がら、活^{かつ}動^{どう}を^を続^{つづ}けて^てい^いか^かな^なけ^けれ^れば^ばな
ら^らないと思^{おも}いま^ます。

だい かいなごやたいかい じゅんび はくりよく
第^{だい}15回^{かい}名^な古^こ屋^や大^{たい}会^{かい}の準^{じゅん}備^びが^がす^すご^ごい^い迫^は力^{りき}で
進^{すす}ん^んで^でい^いる^るこ^こに^に感^{かん}動^{どう}しま^ました。そ^そして
じ^じか^{かい}い^いか^{かい}い^いさ^さい^い ふうおかきょうく みなさま い きご
次^じ回^{かい}開^{かい}催^{さい}さ^される^る福^ふ岡^{おか}教^{きょう}区^くの皆^{みな}様^{さま}の意^い気^き込^こみ^みに
き^きぼう かん ぜんかいかいさい わ
希^き望^{ぼう}を^を感^{かん}じ^じつ^つつ、ふ^ふと^と前^{ぜん}回^{かい}開^{かい}催^{さい}した^{した}我^わが
ながさききょうく さび がんば
長^{なが}崎^{さき}教^{きょう}区^くは？ち^ちょ^ょこ^こと^と寂^{さび}しい^いけ^けど、頑^{がん}張^ばる^る
し^しか^かない?!

す たの ゆうしょくかい いざ かや
み^みん^んな^なと^と過^すご^ごした^{した}楽^{たの}しい^い夕^{ゆう}食^{しょく}会^{かい}、居^い酒^ざ屋^やさ
ん^んは、た^たこ^こ焼^はき^きか^から^ら始^はまり^りび^びっ^っく^くり^りしま^ました。
さ^さす^すが^が大^{おお}阪^{はん}、お^お口^{くち}の中^{なか}も心^{こころ}もア^あツ^つア^あツ^つア^あツ^つア^あツ^つ
ツ……！

あ ひ たの
お^お会^{かい}い^いで^でき^きる^る日^ひを^を楽^{たの}しみ^みに^にし^して^てい^いま^ます。

れんらくさきおよ にゆうかい もう こ さき 連絡先及びご入会の申し込み先

じ む きょく な ご や し しょうわくえほうちよう
事 務 局：〒466-0037 名古屋市昭和区恵方町2-15
な ご きょうく ふくしいんかいしつない
名古屋教区カリタス福祉委員会室内
にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい
日本カトリック障害者連絡協議会
Tel：052-852-1426 Fax：052-852-1422

ゆうびんきょくふりかえこう ざ ばんごう
郵便局振替口座番号：00100-7-31254

どうふう ふりこみようし りよう
(同封の振込用紙をご利用ください)

かい ひ ねんかん くち えん
会 費：年間1口 1,000円
(団体 10口以上 個人 1口以上)

かにゆうしゃめい にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい
加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会